

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子町田駅前保育園
施設所在地	東京都町田市原町田6-17-8クオーレ1階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感覚統合遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

元気いっぱいのクラスで、集団遊びが大好きな子どもたちが多く、バルーン、ムーブメント、ロープ遊びを積極的に参加していた。クラスの中には障がい（加配）児やグレーゾーンも在籍しているクラスであるが、全体的に動きが激しく怪我の多いクラスであるという課題もあったので、「こころ・からだ・あたま」を使っての遊びを経験する事で、人とかかわりや一緒に遊ぶ楽しさ、自分の身体や道具を使って工夫して行動する事で考える力が育つと考えたのでこのテーマにした。

2. 活動スケジュール

【ロープを使って友達と遊ぶ】

〈4月〉ムーブメントロープ

- ・動きが激しい子どもに対して、じっくりと友達と遊ぶことを体験した。
- ・子どもたちは意図がわかるようになり、音楽や歌に合わせてロープを回すこと出来るようになった。

【バルーン遊び・椅子ゲームで遊ぶ】

〈6月～10月〉バルーン遊び・椅子ゲーム

- ・ロープをバルーンに持ち替え、バルーンを回すことにチャレンジ。輪になって椅子に座り、魚の玩具やボールを隣の人に回していく遊びをすることで、友達と遊ぶことをさらに意識させる。

【前庭覚・固有覚をつかって遊ぶ】

8月19日 講師来園1回目

- ・前庭覚・固有覚を使う遊びを講師と一緒に考える。
- ・ロープ遊びやバルーン遊びの他にマット遊び（上る・立つ・跳ぶの動作を入れた遊び）、雑巾がけを行う。

10月16日 講師来園2回目

- ・購入したスクーターボード・バランスボール・フープ・小さいボールなどを使った活動を行う。

11月 2回目の雑巾がけゲームを行う

- 乾いた雑巾の上にカラーボールを乗せて落ちないように進むゲームを行う。

12月 カラーリングゲームを行う

- カラーリングの中に入り、両手で持って三角コーンまで走っていき、一周するゲームをおこなった。

12月24日 講師3回目の来園

- ・発表会で「てぶくろ」の劇遊びのサーキット運動を行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・バランスボール（小）
- ・レインボートンネル
- ・ボールプール用カラーボール
- ・フラフープスタンドセット
- ・リトルコーン
- ・パー
- ・鈴・ゴム紐
- ・雑巾
- ・大型ビニールプール
- ・ターゲットゲーム
- ・ミニロープ
- ・ネットくぐり
- ・スクーターボード
- ・ここんの巡回講師料

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【ロープを使って友達と遊ぶ】

〈4月〉ムーブメントロープ

・最初はゲームのやり方の説明も分からず、最初は友だちと息を合わせて動かすことは難しく、早く動かす児、どちらに動かしたらいいのかわからない児もあり、雰囲気を楽しんでいるだけだったが、だんだんと意図がわかるようになり、音楽や歌に合わせてロープを回すこと出来るようになった。

【バルーン遊び・椅子ゲームで遊ぶ】

〈6月～10月〉バルーン遊び・椅子ゲーム

・ロープ回しが上手になったので、歌いながらロープをバルーンに持ち替えて回す、上下に振る（大波・小波）を行う。隣の児を意識して動きを合わせたりすることも徐々に上手に出来るようになってきた。友だちを意識して遊ぶ遊びとして、輪になって椅子に座り、魚の玩具やボールを隣の人に回していく遊びを取り入れたりした、ただしこの遊びの時間以外は自由に動いて遊んでおり、指示が通らないことが続いていた。

【前庭覚・固有覚をつかって遊ぶ】

〈8月・9月〉19日講師来園1回目

・講師から前庭覚・固有覚の概念について学ぶ。その2つを遊びを設定する事で動きの質が変わるかも。という事で、活動と一緒に考える。

・継続しているロープ遊びやバルーン遊びとともに、マット遊び（上る・立つ・跳ぶの動作を入れた遊び）雑巾がけを行う。雑巾がけは、スタッフがおしりを上げて前進する見本を見せたが、その姿勢で進める児はおらず、膝をついて進んだり、中には進めない児もいた。濡れた雑巾と乾いた雑巾を使ったところ、乾いた雑巾の方が良く進むことに気が付いた児もいた。また、遊びの中で物を押して進む姿がみられるようになっていった。

〈10月〉16日講師来園2回目

・道具を使った遊び・・・スクーターボード・バランスボール・フープ・小さいボールなどを使った活動を行う。この日は、いろいろな物をつかって「どうやって運ぼうか」という問いのもと活動を行った。バランスボールをフープを使って運ぶ活動では、ボールにフープをかけて動かしたり、フープで押すようにして動かしていた。バランスボードでは、一人の児がボードについているベルトに玩具を挟んだことから真似て玩具が落ちないように運ぶ姿も見られた。また、一人の児の「これ、乗れるんじゃない」という言葉で玩具ではなく、自分が乗って移動する遊びになっていった。

普段の遊びの中でも、バランスボールを二人で挟んで運ぶゲームを行ったが、早く動きたい気持ちはあるが、早く動くとボールが落ちてしまうので、「はやくしないで」「ゆっくりだよ」と声を掛け合い進む姿が見られた。

〈11月〉

・2回目の雑巾がけ。乾いた雑巾の上にカラーボールを乗せて落ちないように進むゲームを行う。ボールが落ちることは関係なく早く進む児もいたが、繰り返すうちにどうやったら落ちないか考えながら進むようになる。「どうやったら落ちないかな」と問うと、「ゆっくり進む」という答えが多かったが、「ボールを見ると落ちない」という児もいて驚いた。

〈12月〉

・カラーリングの中に入り、両手で持って三角コーンまで走っていき、一周する。リングを持って落とさないようにしながら走るのが意外と難しい。これも、何日か繰り返すうちにコツをつかんだようだった。

12月24日 講師3回目の来園

・発表会んで「てぶくろ」の劇遊びをしたので感覚統合遊びの集大成として「てぶくろ」のストーリーに道具を使ったサーキットを組み合わせて行った。良く知っているストーリーだったことで、サーキットをどのように進めていくかがわかりやすかった。

サーキットは、2列で順番に行ったが、始めた当初は順番を待てずに、やりたい事をやりたい気持ちのままに行っていた子ども達だったが、順番を待てるようになったり、勝手に動いたりしなくなり、順番を守って楽しむことができた。また、体の動かし方が上手になったことを感じた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

<4月>ムーブメント、ロープ

・みんなで輪になりロープを両手で持つ時にはスタッフの持ち方をしっかり見て真似してロープを握ることができていた。

・歌は馴染みのある「かめとうさぎ」などを歌いながらロープを回すと、手と口で別の動作をするのが難しくどちらか片方になってしまっていた児が多かった。回数を重ねていくごとに慣れてきて、歌いながらロープを左右に回すことができるようになった。

<6月-10月>バルーン遊び

・4月からバルーン遊びを取り入れている為、全員楽しみながら参加する様子が見られた。子どもたちがとても喜んで参加する様子から運動会でバルーンをすることを決めた。運動会では子どもたちが良く知っている「ミッキーマウスマーチ」の楽曲にし、曲に合わせてスタッフの声かけでバルーンを持ち上げたり下げたりする動きを歩きながら全員できていた。9月頃からはスタッフの声かけのタイミングに合わせてバルーンの中に入る動きも「楽しいね」「バルーンの中暗いね」と会話をする姿が見られた。

<8月・9月>

・ムーブメント・ロープ遊び：全員で輪になってロープを歌に合わせて前後左右に回して遊ぶ。「右はどっち?」「左はどっち?」と聞くとしっかり正しい方向を指さして答える児の姿が見られた。途中から反対回りになっても対応できていた。

・マットの山から「滑る」ことを発見。その動作を取り入れながら遊ぶ。

・雑巾がけを初めてした時には、スタッフがお尻を上げて前に進んでいく見本を見せたが、15名全員がその姿勢ではできなかった。できていた児は、膝を使って前に進む方法を見つけていた。できなかった児は膝を曲げて浮かしながら動かすことが出来ず、床に膝を付けた状態で前に進む姿が見られた。

<10月>

・スクーターボードを使用した際、好きな玩具の一つ乗せて滑らせ、玩具を所定の位置に運ぶ遊びを提案した際、子どもたちの中から遊んでいるうちに発見があった。Sちゃんは玩具を「持って行ったらいけない?」と言い、Yちゃんは、スクーターの紐に挟んで、魚の玩具が落ちないように考えて滑られていく。Nちゃんは、スクーターに乗れることに気が付き、乗って玩具を運んでいった。

・二人組になってお腹にバランスボールを挟んで運ぶ活動では、ボールが落ちないようにお互いの体を押さえて運ぶ姿や両手を近づけて持ち、くっつくのが嫌な児は、子ども同士で成立する運び方を考えていた。やりたくないと思っていた児も他児が遊んでいる姿をみて、自分から「やる」と言ってきた。

<11月>

・二回目の雑巾がけでは、乾いた雑巾の真ん中にカラーボールを乗せて落ちないように前に進んでいく活動を行った。落ちないように片手で抑える児や、落ちてもまた自分で乗せて進んでいく児などいた。二回目の雑巾を使った活動だった為、乾いた雑巾は滑りやすく、スピードが出やすいことを知っている為、スピードを上げていく児もいた。その後はかごにボールを入れてゴールになるが、上手くかごに入れられない児は落ちたボールを手で拾い入れたり、しっかり落ちたボールをまた雑巾に乗せて慎重に運んで入れる児など様々な姿が見られた。

<12月>

・スタッフのお手本を見てゆっくりと動作を確認しながら、真似ができていた。並ぶ順番もしっかり誰の後ろに並ぶのか子どもたち同士で確認し合いながら待つ様子が見られた。なかなか説明やお手本を見ても理解できない児も数名いたが、スタッフの援助で楽しむ様子が見られた。

・初めて行った動作が一つあり、鈴が並んでる所を通るのですが、仰向けになり、鈴を鳴らさずに、足を使い体を滑らせて行く動作では、どの子も興味をもち楽しんで参加していました。足の動きが上手くできなかった子も、繰り返すうちにコツを掴んで進むことができました。

「もっとやりたい」と言いながら、順番にサーキット遊びの様に繰り返し遊ぶ姿を見て、自分の身体を使って、頭で考えながら遊ぶ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

感覚統合遊びを充実させていく為に、講師の先生により玩具の使い方、子どもたちにどのように取り入れて行くのかや動きなど沢山アドバイスを頂きました。動きの質を高めていく為に、雑巾がけの動作から動と静の動き、ストーリー性を取り入れて、子どもがより楽しめるようにすくわく遊びを展開していきました。視覚から入る動きを見て真似て自分の体を動かしていくのには、協応動作が働かないなりません。経験を重ねていくうちに、子どもたちは、その部分の成長が発達してきました。室内での自由遊びの時に、獣の様な動きをして（くまさん歩き）友だちと追いかけてっこをしたりする姿も見られ、体幹が整ってきて、戸外活動で、長い階段を上る体力も付いてきました。下りる時も、手すりを持たなくても長い階段をバランス良く下りれたり、安全性も育ってきました。玩具を使って遊ぶ際も、当たり前ではない発想が生まれてきて、考える力も育ちルールのある遊びと一緒に楽しめるようになってきました。秋に実施した行事、運動会では、この園で、初めてバルーンを披露することができ、保護者はビックリしていました。また、12月の行事、発表会では、てぶくろの劇遊びを披露し、各々の動物の役に成りきり表現がどの子も豊かでした。感覚統合遊びを通して、自分の身体をどう動かすか、友だちと運動するにはどうしたらいいかを考えながら動くことが身に付いたことで、子ども達の遊び方に変化が起こり、自分で考えて遊びを展開していけるようにもなりました。また、遊びを展開するときに「こうしたらいいよ」といった2歳児なりのやり取りが見られ、自分本位だった行動から友だちを意識した関わり合いが出来るようになり、感覚統合遊びは、体の動きを滑らかにするだけではなく、友だちとの関係性の構築にも良い影響を与えるという事を実感しました。今回の感覚統合遊びを通し、身体からのアプローチが気持ちの変化につながり、身体と心が連動していることを発見しました。子ども達の変化w感覚統合遊びが子ども達にもたらしたものがとても大きかったことを実感しているので、今後も、継続し活動し園の特色にしていきたいと考えています。